

# スタイルは無限 舞台は多種多様な世界

2022年6月、東京大学は誰もが生き生きと活躍できる魅力あるインクルーシブキャンパスの実現を目指すため、「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を制定しました。まさに今回は感染症疫学の研究に取り組む若手研究者、金融機関から異業種のIT業界などキャリアを重ねるビジネスリーダーの登場です。チャレンジし続ける姿勢の大切さ、バイタリティーの秘密について伺いました。

## 東大で自分の進む道が 明確になった

小学生4年から6年までの3年間、父の仕事の関係で南アフリカ共和国・ヨハネスブルクに住んでいました。野生動物と触れ合ったり、公衆衛生の環境が全く違う生活で、漠然とですが将来は国際機関で働きたい、獣医師になりたい、という夢を抱いていました。その後東大の農学部医学専攻に進学し、公衆衛生学や疫学の講義を受け、WHO（世界保健機構）やOIE（国際獣疫事務局）で働いている方の話を伺う機会を得、「世界を舞台に働いている獣医師がいる。自分がやりたい道はこれだ!」と気づき、

疫学者として感染症対策に貢献できる人材になろうと進路を決めました。さらに視野を広げたいと考え、海外留学を目標にしました。

## 現場で学んだこと

6年生の冬に欧米の大学院に複数出願し、最終的にエモリー公衆

衛生大学院に留学が決まり、公衆衛生学修士号を取得。米国疾病管理予防センターで感染症疫学者として2年間勤務しました。感染症の発生状況変化を監視するシステム設置や疫学調査を重ねる中で、「集められた

データをより効果的に使いたい」「統計的・数理的解析法を学びたい」と考え、次のステップ、イエール大学の博士課程に進学を決めました。

## 感染症研究と 変わる未来

2020年8月にイエール大学を修了してすぐ、エモリー大学では2つのラボに採用されました。現在住んでいるコネチカット州ニューヘイブンから、ジョージア州アトランタでの

仕事をリモートワークで行っています。函館に住みながら、福岡の大学の仕事をしているイメージです。

2つの研究チームのひとつでは、新型コロナウイルス感染症の研究を行っており、「アメリカ各州で新型コロナウイルスに何人感染したのかを正確に推定する」研究をしています。

そこで私は抗体価の減少を調整した上でより正確に累計感染者数を推定

「羽ばたく女性研究者賞奨励賞」賞状。ハレの舞台で代理で受け取ってくれた両親に親孝行できたような気持ち。

できるモデルを開発しました。その結果、現在、アメリカ全土および各州ではこのモデルを用いて累計感染者数を推定しています。

もうひとつは「ワンヘルス」という人獣共通感染症のプロジェクトです。衛生管理のよくないマーケットでさばかれた食肉が、サルモネラ菌やカンピロバクターに汚染されて持ち込まれる状況を数理モデルにし、いかに効率的に解決できるか、シミュレーションを通して提案しています。

## ひとりの研究者として

アメリカに住んで今年で10年目を迎えました。留学当初はトラブルの連続でチャレンジの繰り返しでしたが2019年に第一子を、2021年に第二子を出産しました。パンデミックで孤立し仕事が続ける中、子どもの保育園は休園を繰り返し、満足に仕事ができない状態が続き、実質50%以下しか稼働できない日々だったと思います。

そんな中、2022年5月に「第一回羽ばたく女性研究者奨励賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）」※を受賞しました。帰国はできませんでしたが、父母が代理で授賞式に参加しました。子どもや職場にストレスをかけてまで仕事する意味はあるのか悩んでいましたが「今はそれでもいい、研究者として頑張り続けていいんだよ」と言われたように感じています。



イエール大学の卒業式は子どもたちも一緒に。

多々苦戦しながらも研究を続けている人間がいると伝えられたら、何かのきっかけや手助けになるかもしれないと思っています。今回の受賞は、研究者、母、人として成長し、人間と動物の健康に貢献できるよう、精進していこうと新たなエネルギーをもらいました。様々なバックグラウンドの人たちが安心して快く仕事や生活ができるよう、これからもアカデミアの環境改善に努めていきたいと思っています。

## Profile

エモリー大学疫学者、WHO統計コンサルタント。専門分野は感染症疫学。2012年東京大学農学部獣医学専攻卒業。米国エモリー大学で公衆衛生学修士号を取得。その後米国疾病管理予防センターにてエボラウイルスなどの疫学研究、アウトブレイク対応を担当。16年秋からイエール大学の博士課程にて数理モデルを用いた感染症動態の研究に取り組み、20年修了。



※ 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と駐日ポーランド大使館が日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰。